



ホタテ部長  
佐々木 淳さん



小石浜漁港

## 「恋し浜のホタテが恋しい」と言ってくれる人のために

綾里漁業協同組合・小石浜養殖組合（大船渡市）

### ホタテ養殖施設が全滅

平成23年3月11日の大地震のとき、佐々木淳さんは小石浜の海でホタテ養殖の作業をしていた。

「海ごと揺れました。山の方を見たら、黄色い煙が舞い上がりました。樹木の花粉が激しく舞い上がっていったんです。これは尋常じゃないと思いました。」

消防団員でもあった佐々木さんは、すぐに陸に上がって住民を高台に避難させた。数軒の家が被害を受けたが、全員無事だった。しかし、ホタテの養殖施設は全滅した。

### ブランドの灯は消せない

「恋し浜」ホタテをブランド化して8年、人気は高まっていった。漁場に見合った数量管理と毎日の徹底したホタテの管理が、身の厚い、おいしいホタテとしてブランド化につながった。

「波のうねりの中にあると、ホタテはエサも取れなくなって成長が悪くなります。そこで、ホタテをあまり沈めないように、また水面に出さないように、と行ってきた浮力調整の努力が実を結びました。なにより、先輩たちがやってきた数量制限が大きいんです。このブランドの灯は消せません。」

### 復興のために話し合う

震災直後は、小石浜公民館を避難所にして、集落の数十人が大家族のように避難生活を続けた。青年部の男たちは、家の片付けや他地域の捜索活動に出たりもした。漁場の復興には経費もかかるので、どうするかという話し合いをみんなで行っている。

「ときには飲み会をしながら本音で話

してもらいます。冗談話もしながらなければ、地域もまとまっていけないです。」

### 船舶の共同使用で再開

震災直後から、使えそうな漁具を集めたり、海のカレキ撤去を開始した。そして今、共同で船を使用してホタテ養殖を復活させる活動に入った。

「一人当たり3千万円以上の被害額になるため、これまでのような個人経営ではできません。各自が自立するまでは、共同でやっていきます。」

北海道から1年目の種ホタテを入れて、来年から恋し浜ブランドのホタテの生産ができるように、漁場の復興を始めている。

### 地域で協力し合う気風

本来、隣より多く取りたいというのが漁師の性質だという。まとまらないのが漁師の世界。ところが、小石浜の漁師仲間は違う。

「先輩たちの時代から、『みんな協力してやろう。』という気風があります。数量制限も、みんなが協力しなければできませんでした。昔から陸の孤島の集落だったので、地域が力を合わせなきゃ生きていけませんでした。それで、『みんなで一つ』という気風になったのかもしれない。」

佐々木さんは、小石浜の復興を示すことで大船渡や岩手の復興につなげたいと意気込んでいる。

### 世界ブランドにする夢

「将来的には、小石浜のホタテを今よりももっと生産して、世界ブランドとして発信したいです。吉浜アワビの

ように。これまで取引してくれた人は『早くほしい。』と言いません。だからこそ、恋し浜ホタテを早く復活させたいんです。再生には数年はかかると思いますが、地域で協働しながら前に進んでいます。我々にとってもとんでもないピンチではあったけど、逆に言えば大きなチャンスでもあるんです。恋し浜ブランドを復活させて、岩手の漁業に波及させていきたいです。」

### 恋し浜ホタテの由来

恋し浜のネーミングの由来は、地元の人々が昭和60年頃に詠んだ短歌。「三鉄の／藍（愛）の磯辺の／小石（恋し）浜／かもめ止まりて／汐（しお）風あまし」。請願により三陸鉄道の駅名も「恋し浜」となった。駅はパワースポットと言われていただけに、津波にも微動だにしないかった。以前は駅舎の中にホタテの貝殻（絵馬）がおかれ、幸せを祈る言葉を書いて吊るすようになっていたが、現在はホタテをかたどった折り紙が置かれている。

恋し浜駅のホタテ絵馬



### ●連絡先・綾里漁業協同組合

住所：〒022-0211 岩手県大船渡市三陸町綾里字港16-2  
TEL：0192-42-2151/FAX：0192-42-2153  
<http://www.jf-ryouri.or.jp/>